

# 景 気 動 向 調 査

( 第 146 回 )

2007 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2007 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1．県内景況感について	.....	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5．経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

- 1．実施時期 2007年6月下旬～2007年7月上旬
- 2．調査対象期間 2007年4月～6月期実績  
2007年7月～9月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 400社
- 5．回答数 221通（回答率 55.25 %）  
<内訳> 製造業 71社 建設業 49社 卸・小売業 101社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について  
(2) 設備投資の動向について  
(3) 資金繰りの状況について  
(4) 当面する経営上の問題点について

以 上

#### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

（注）「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

## 概 況

～ 県内景況感僅かながら上向く ～

2007年4～6月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で 51.4 と前期 52.5 より 1.1 ポイントほど上向きとなった。

先期調査で2期連続下向きとなった景況感は今期僅かながら上向きとなり、緩やかな持ち直しの動きが持続していることが窺える。次期見通しでは景況感DIが 42.3 と更に上向く見通しとなっており、ガソリン高ほか先行きに不透明な要素もみられるが、7月以降の動向を注視したい。

項目別に前回調査時（2007年1～3月期実績）と比較してみると、今回は業種間の格差が鮮明に表れた結果となっており、売上高、収益動向および資金繰り状況で、製造業が上向いているのに対し、建設業と卸・小売業が停滞している状況となっている。製造業は生産高、設備投資の実施状況も上向きとなるなど、県内の景気改善の動きを牽引していることが窺える。今回不振だった卸・小売業は次期見通しでは売上高、収益等で上向きとなっているが、建設業は下向く予想となっており、来期以降の業種間の改善の動向が注目される。

国内経済をみると、企業収益は改善の動きを維持し、設備投資は引き続き増加している。企業の景況感も良化し、雇用・所得環境は厳しさが残るものの着実に改善してきており、個人消費も緩やかながら改善に向け底堅い動きとなっている。一方、鉱工業生産は在庫調整等で前年比横ばいの動きとなっている。金融情勢は、長期金利が米国金利の動き等を背景に上昇しており、株価は一時上昇した後17千円台後半で推移している。また、国内企業物価が素材価格高等により上昇しているが、消費者物価は横ばいの動きとなっている。

一方、最近の岩手県内経済をみると、鉱工業生産は電子部品、輸送機械を中心に増加基調を維持しており、設備投資、住宅建設も底堅い動きとなっている。公共投資が低い水準ながらも前年を上回って推移しており、雇用情勢も少しずつ改善方向へと動いている。しかし、個人消費は依然として盛り上がりには欠け弱含みの動きが続いている。全体としては一部には厳しい状況がみられるが、緩やかな回復基調の動きが持続している。

<参考>

岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感DI
1	第124回	01年10～12月	91.2
2	第109回	98年1～3月	90.6
3	第111回	98年7～9月	90.0
4	第108回	97年10～12月	89.7
5	第110回	98年4～6月	89.3

(1971(昭和46)年以降)

## 1. 県内景況感について

全体のD Iは、今回調査では 51.4 と前期比 1.1 ポイント上昇したが、50 台を超えて回復するまでには至らなかった。各業種別のD Iをみると、卸・小売業では5.4 ポイント下降したが、製造業が4.7 ポイント、建設業が8.0 ポイント上昇し、全体で僅かに上昇する結果となっている。

7~9 月期見通しは、卸・小売業で 10 ポイント以上上昇する見通しとなるなど、全業種で上向き見通しとなっている。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

D I が、製造業は上昇しプラスの水準を維持したが、建設業と卸・小売業は大きく下降し、全体を押し下げる結果となっている。

### (2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は上昇しプラスの水準を維持したが、卸・小売業の仕入高は下降し4 期連続下向きとなっている。

### (3) 在庫

卸・小売業の商品在庫は下向きとなっているが、製造業の製品在庫は大きく上向きプラスの水準となっている。製造業の原材料在庫水準に比較すると、卸・小売業の商品在庫水準では過大とする企業の比率が高い。

### (4) 収益

製造業が大きく上向いたが、卸・小売業が大きく下向いており、全体でも2 期連続で下向きとなった。7~9 月の見通しでは、製造業と建設業で下向いており、特に建設業が 20.1 ポイントと大きく下向いている。

### (5) 販売価格・仕入価格

D I は、販売価格が 10.6 ポイント上向きプラスの水準となっており、仕入価格も 10.7 ポイント上向き 39.9 とプラスの高い水準で推移している。

## 3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は 22.6% と上向きとなっており、特に製造業の実施状況が高かった。

なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」「生産・販売能力の増加」の割合が引続き高くなっているが、製造業では「福利厚生施設」の比率が高くなっている。

## 4. 資金繰り状況について

建設業と卸・小売業で下向きとなっているが、製造業は 18 ポイントと大きく上向いている。来期の見通しについても、製造業以外下向き予想となっている。

## 5. 経営上の問題点について

上位の4 項目、「売上・受注不振」「過当競争」「収益不振」「販売価格安」は変わっていないが、「原材料・仕入価格高」が製造業で比率が高く同率でトップとなっている。

# 1. 県内景況感について

～ 僅かだが上向きに転ずる ～

〔4～6月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が4.1%（前期6.9%）、「悪い」が55.5%（同59.4%）で、DIは51.4（同 52.5）と、1.1ポイント上昇した。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が42.3（同47.0）、建設業が50.9（同58.9）、卸・小売業が58.0（同52.6）と卸・小売業だけが下降し、製造業と建設業は各々で4.7及び8.0ポイント上昇している。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が7.0%、「悪くなる」が49.3%であることから、DIは42.3となり、4～6月期実績と比較すると指標は9.1ポイント上向く。

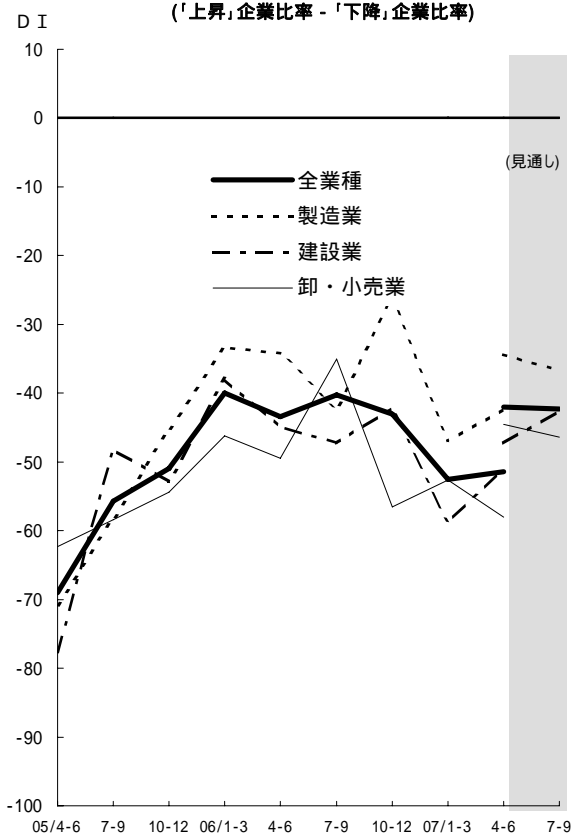
業種別にみると、製造業が36.7、建設業が42.6、卸・小売業が46.4となっており、4～6月期実績と比較して全業種で上向き見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	4～6月 (実績)	0.5	3.6	40.4	35.0	20.5	-51.4
	7～9月 (見通し)	0.5	6.5	43.7	34.9	14.4	-42.3
(製造業)	4～6月 (実績)	1.4	2.8	49.3	29.6	16.9	-42.3
	7～9月 (見通し)	1.4	5.6	49.3	28.2	15.5	-36.7
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	8.2	32.7	36.7	22.4	-50.9
	7～9月 (見通し)	0.0	8.5	40.4	36.2	14.9	-42.6
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	2.0	38.0	38.0	22.0	-58.0
	7～9月 (見通し)	0.0	6.2	41.2	39.2	13.4	-46.4

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 3期連続で下向く ～

**[4～6月期の実績]** 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」と答えた企業が32.1%(前期37.5%)、「減少」が44.8%(同43.8%)となり、DIは△12.7(同△6.3)と6.4ポイント下降し3期連続で下向いた。

業種別にDIをみると、**製造業**16.9(前期10.5)、**建設業**△8.1(同5.4)、**卸・小売業**△35.6(同△25.0)となっており、製造業が上昇しプラスの水準を維持したのに対し、建設業と卸・小売業が下降している。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」とみる企業が26.9%、「減少」が33.3%であることからDIは△6.4で、4～6月期実績と比較して6.3ポイント上向く予想となっている。

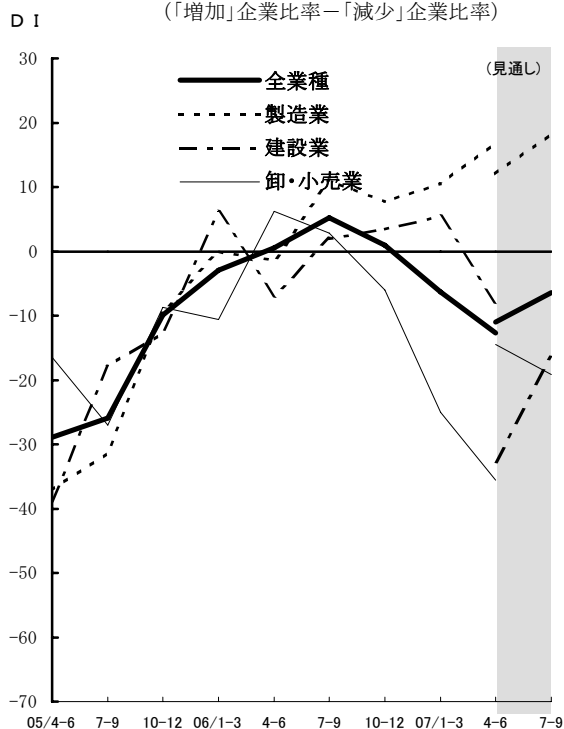
業種別にDIをみると、**製造業**で18.3、**建設業**で△16.4、**卸・小売業**で△19.2となっており、4～6月期実績と比較して製造業と卸・小売業で上向く見通しとなっているが、建設業では8.3ポイント下向いている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(% )					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月(実績)	4.5	27.6	23.1	33.9	10.9	-12.7
	7～9月(見通し)	2.7	24.2	39.8	26.0	7.3	-6.4
(製造業)	4～6月(実績)	7.0	33.8	35.3	16.9	7.0	16.9
	7～9月(見通し)	4.2	33.8	42.3	14.1	5.6	18.3
(建設業)	4～6月(実績)	4.1	32.7	18.3	34.7	10.2	-8.1
	7～9月(見通し)	2.0	24.5	30.6	28.6	14.3	-16.4
(卸・小売業)	4～6月(実績)	3.0	20.8	16.8	45.5	13.9	-35.6
	7～9月(見通し)	2.0	17.2	42.4	33.3	5.1	-19.2

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



## (2) 生産高または仕入高

### ～ 製造業の生産高上向きを維持 ～

**[4～6月期の実績]** 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が44.2%（前期46.2%）、「減少」が25.7%（同37.3%）で、D Iは18.5（同8.9）と9.6ポイント上向きとなっている。

**卸・小売業**（仕入高）では、「増加」と答えた企業は23.2%（前期28.8%）、「減少」が52.5%（同43.3%）で、D Iは△29.3（同△14.5）と4期連続下向いている。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が35.7%、「減少」が22.8%であることから、D Iは12.9で、4～6月期実績と比較して5.6ポイント下向き見通しとなっている。

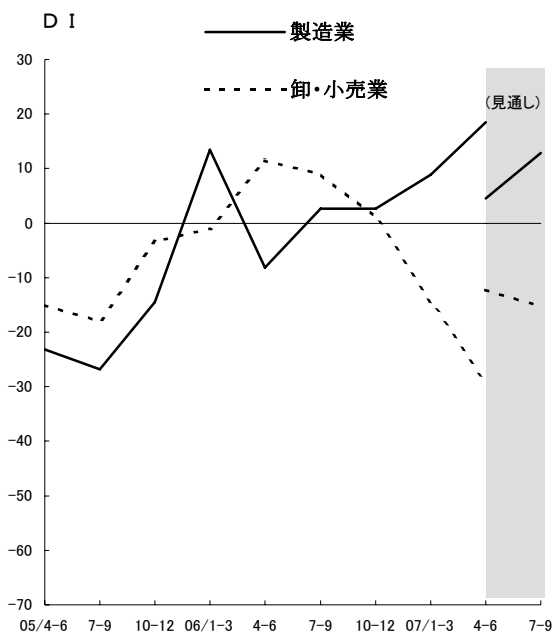
**卸・小売業**（仕入高）については、「増加」と答えた企業が17.1%、「減少」が32.4%であることから、D Iは△15.3となり、4～6月期実績と比較して14ポイント上向き見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	4～6月 (実績)	7.1	37.1	30.1	21.4	4.3	18.5
	7～9月 (見通し)	4.3	31.4	41.5	17.1	5.7	12.9
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	4.0	19.2	24.3	40.4	12.1	-29.3
	7～9月 (見通し)	3.0	14.1	50.5	27.3	5.1	-15.3

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率－「減少」企業比率)





(3) 在 庫

～ 製造業の製品在庫上向きプラスの水準 ～

【4～6月期の実績】 在庫状況実績（前年同期比）をみると、**製造業**では、製品在庫が「増加」と答えた企業は15.9%（前期12.5%）、「減少」が13.0%（同32.8%）であることから、DIは2.9（同△20.3）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が12.9%（同6.9%）、「適正」が79.0%（同81.1%）、「不足」が8.1%（同12.0%）である。

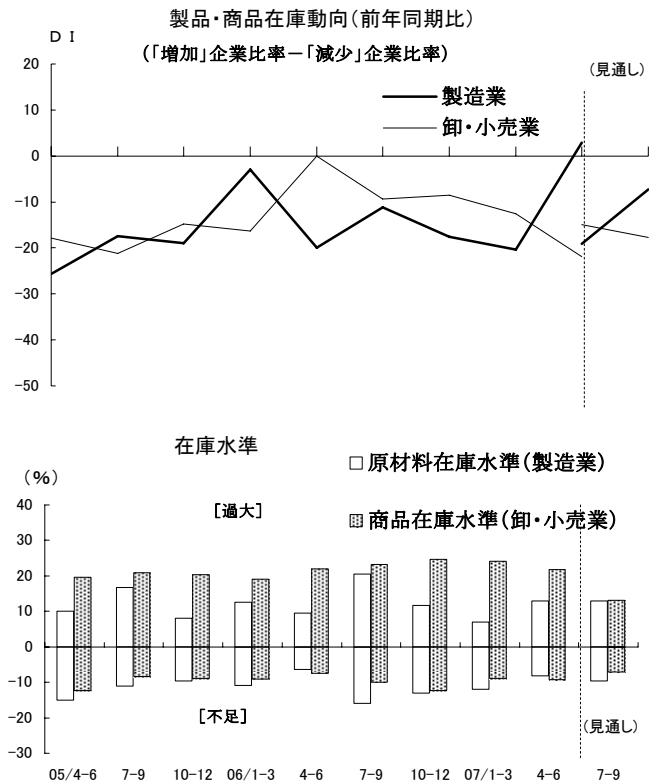
**卸・小売業**の商品在庫は、「増加」と答えた企業が12.5%（前期15.9%）、「減少」34.4%（同28.4%）であることから、DIは△21.9（同△12.5）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が21.8%（同24.1%）、「適正」が69.0%（同67.0%）、「不足」が9.2%（同8.9%）である。

【7～9月期の見通し】 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**の製品在庫は、「増加」とみる企業が13.0%、「減少」が20.3%で、DIは△7.3となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が12.9%、「適正」が77.4%、「不足」が9.7%である。

**卸・小売業**の商品在庫については、「増加」とみる企業が7.3%、「減少」が25.0%であることから、DIは△17.7となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が13.1%、「適正」が79.8%、「不足」が7.1%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	4～6月 （実績）	0.0	15.9	71.1	13.0	0.0	2.9
	7～9月 （見通し）	1.4	11.6	66.7	20.3	0.0	-7.3
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	5.2	7.3	53.1	31.3	3.1	-21.9
	7～9月 （見通し）	3.1	4.2	67.7	21.9	3.1	-17.7



#### (4) 収 益

～ 2期連続で下向くも、製造業は上向きに転ずる ～

**[4～6月期の実績]** 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が24.1%（前期27.1%）、「減少」が45.5%（同46.8%）であり、D Iは△21.4（同△19.7）となり2期連続で下向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業**7.0（前期△10.4）、**建設業**△20.8（同△21.9）、**卸・小売業**△41.5（同△25.0）となり、製造業が17.4ポイントと大きく上向いているのに対し、卸・小売業が16.5ポイントと大きく下向いている。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が16.6%、「減少」とみる企業が42.8%であることから、D Iは△26.2で、4～6月期実績と比較して4.8ポイント下向く見通し。

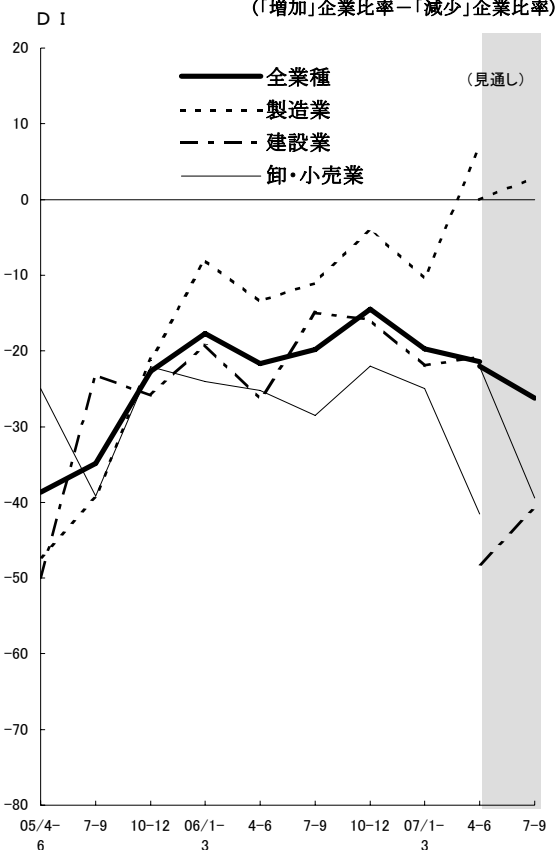
業種別にD Iをみると、**製造業**は2.9、**建設業**△40.9、**卸・小売業**△39.4であり、4～6月期実績と比較して、建設業が大きく下向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
		増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	2.7	21.4	30.4	33.2	12.3	-21.4
	7～9月 (見通し)	1.4	15.2	40.6	31.3	11.5	-26.2
(製造業)	4～6月 (実績)	2.8	33.8	33.8	21.1	8.5	7.0
	7～9月 (見通し)	0.0	33.3	36.3	21.7	8.7	2.9
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	22.9	33.4	35.4	8.3	-20.8
	7～9月 (見通し)	2.0	8.2	38.7	32.7	18.4	-40.9
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	4.0	11.9	26.7	40.6	16.8	-41.5
	7～9月 (見通し)	2.0	6.1	44.4	37.4	10.1	-39.4

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



## (5) 販売価格・仕入価格

### ～ 仕入価格のD Iはプラスの高い水準で推移 ～

**[4～6月期の実績]** 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が22.7%（前期15.6%）、「低下」が22.3%（同25.8%）であることから、D Iは0.4（同△10.2）と上向きとなった。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が46.8%（前期37.5%）「低下」が6.9%（同8.3%）であることから、D Iは39.9（同29.2）と上向きとなりプラスの高い水準で推移している。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が21.4%、「低下」とみる企業が20.5%であることから、D Iは0.9で、4～6月期実績と比較して僅かに上向き見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が42.5%、「低下」とみる企業が7.0%であることからD Iは35.5となり、4～6月期よりは下向き見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

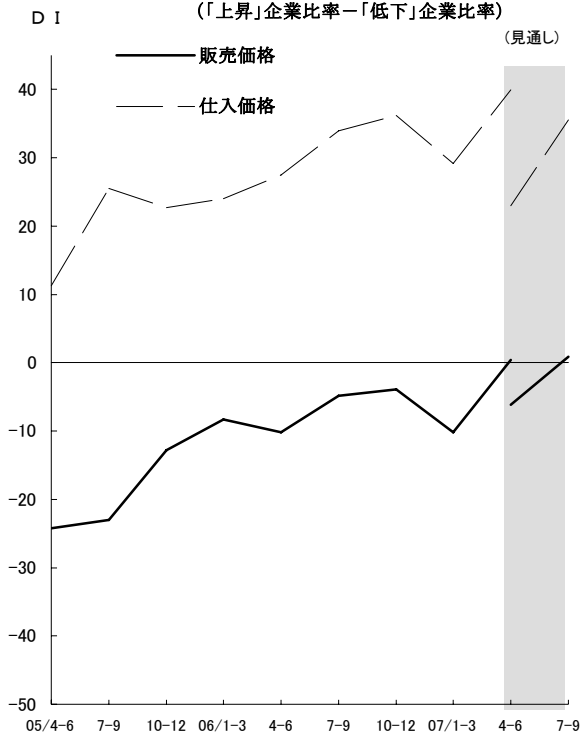
		D I					
		（％）					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	D I
全業種	4～6月 (実績)	3.6	19.1	55.0	16.8	5.5	0.4
	7～9月 (見通し)	1.4	20.0	58.1	15.8	4.7	0.9

仕入価格(前年同期比)

		D I					
		（％）					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	D I
全業種	4～6月 (実績)	7.8	39.0	46.3	5.5	1.4	39.9
	7～9月 (見通し)	5.1	37.4	50.5	5.6	1.4	35.5

価格動向(前年同期比)

(「上昇」企業比率-「低下」企業比率)



### 3. 設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

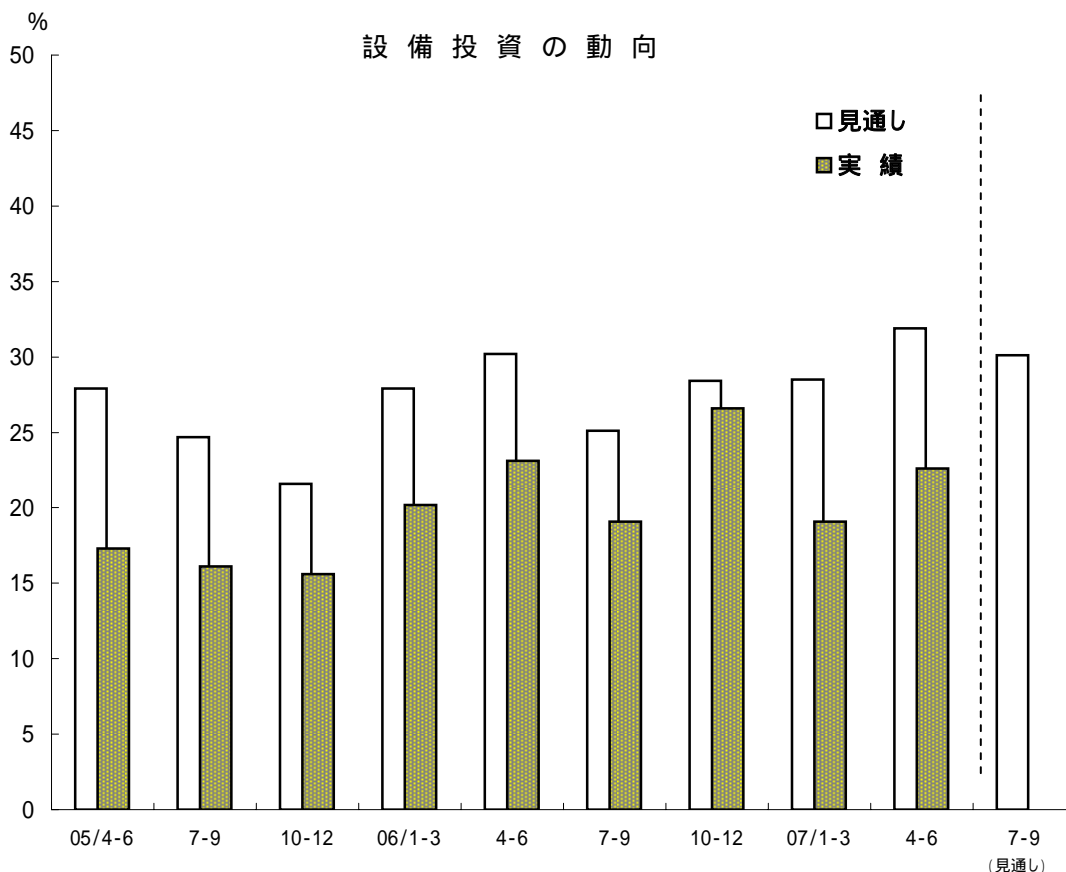
～ 製造業と建設業で上向く ～

[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は22.6%（前期19.1%）で、上向きとなっている。

これを業種別にみると、製造業が37.1%（前期29.7%）、建設業12.7%（同7.1%）、卸・小売業17.0%（同19.0%）と、製造業と建設業が上向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で13.9%（前期18.8%）、「計画はあるが具体化していない」は16.2%（同13.1%）、「計画はない」は69.9%（同68.1%）であった。「計画あり」は合計30.1%（同31.9%）と前期予想より僅かに下向く見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で39.4%（前期46.2%）、建設業で22.9%（同20.4%）、卸・小売業で26.8%（同28.7%）と、建設業だけが上向いている。



## (2) 設備投資の目的

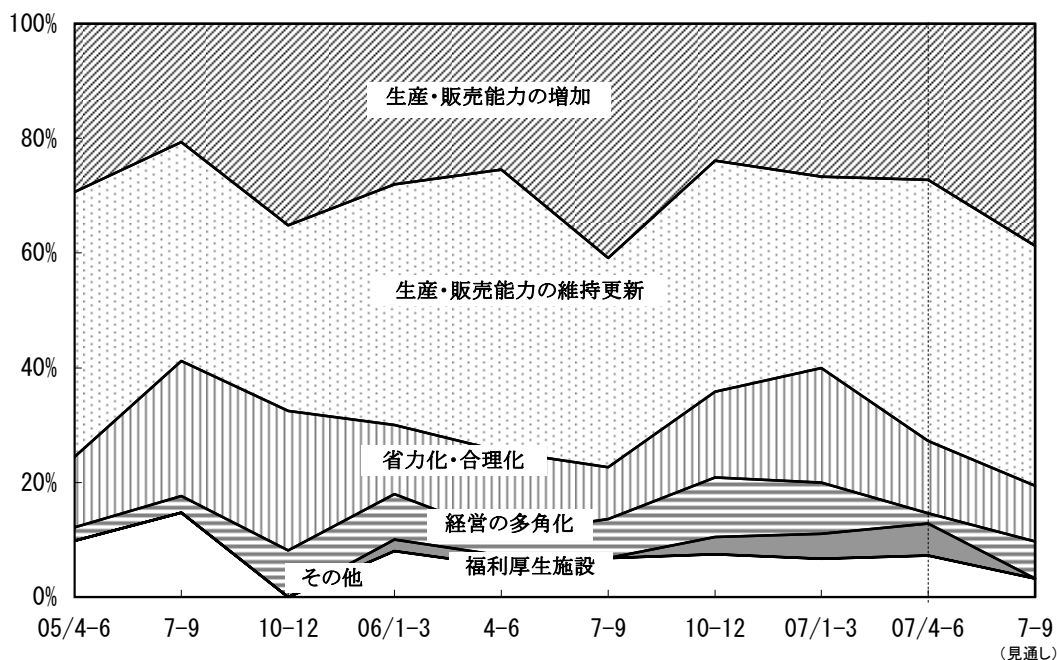
**[4～6期の実績]** 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(22.6%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が45.5%（前期33.3%）の比率でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」が27.3%（同26.7%）で2位、「省力化・合理化」が12.7%（同20.0%）で3位となっている。

業種別にみると、**製造業と建設業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。「省力化・合理化」が上位で続いているが、製造業では「福利厚生施設」の比率が高くなっている。

**[7～9月期の見通し]** 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(30.1%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が41.9%（前期40.7%）でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」38.7%、「省力化・合理化」9.7%、「経営の多角化」6.5%の順となっている。

業種別では、**製造業と建設業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。なお、建設業では「経営の多角化」が高い比率となっている。

### 設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

#### ～ 製造業が大きく上向く ～

**[4～6月期の実績]** 資金繰り状況（前期比）は、**全業種**では、「楽になった」とする企業が17.3%（前期14.3%）、「苦しくなった」が29.1%（同29.8%）であることから、D Iは△11.8（同△15.5）と上向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業**が△0.1（前期△18.1）、**建設業**が△18.3（同△17.8）、**卸・小売業**が△17.0（同△12.6）で、建設業と卸・小売業で下向きとなっているが、製造業は18ポイントと大きく上向いている。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期の見通し（当期比）をみると、**全業種**では「楽になる」とみる企業が10.5%、「苦しくなる」が30.6%で、D Iは△20.1となり、4～6月期実績（△11.8）と比較して、下向く見通しとなっている。

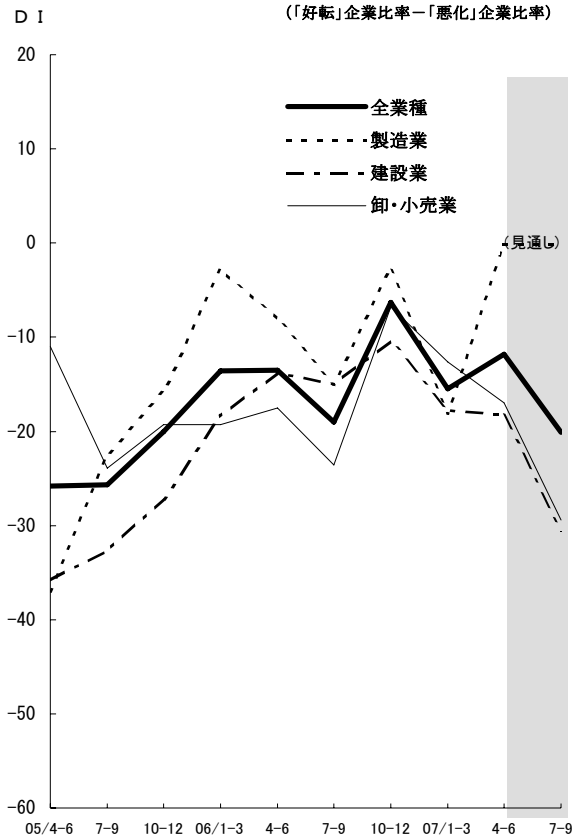
業種別にD Iをみると、**製造業** △0.1、**建設業** △30.6、**卸・小売業** △29.4となっており、4～6月期実績と比較して、製造業以外下向く予想となっている。

資金繰り(前期比)

		(%)					
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	DI
全業種	4～6月 (実績)	2.3	15.0	53.6	20.9	8.2	-11.8
	7～9月 (見通し)	1.4	9.1	58.9	21.0	9.6	-20.1
(製造業)	4～6月 (実績)	2.8	22.5	49.3	14.1	11.3	-0.1
	7～9月 (見通し)	1.4	19.7	57.7	12.7	8.5	-0.1
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	14.3	53.1	26.5	6.1	-18.3
	7～9月 (見通し)	0.0	6.1	57.2	20.4	16.3	-30.6
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	3.0	10.0	57.0	23.0	7.0	-17.0
	7～9月 (見通し)	2.0	3.0	60.6	27.3	7.1	-29.4

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率-「悪化」企業比率)



## (2) 現金・預金

**[4～6月期の実績]** 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が14.9%（前期16.9%）、「減少した」が33.9%（同33.4%）であることから、DIは△19.0（同△16.5）と下向きとなった。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が8.2%、「減少する」が34.1%であることから、DIは△25.9（当期△19.0）と下向き予想となっている。

## (3) 金融機関借入

**[4～6月期の実績]** 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が16.0%（前期20.0%）、「減少した」が33.0%（同29.6%）であることから、DIは△17.0%（同△9.6%）と下向きとなった。

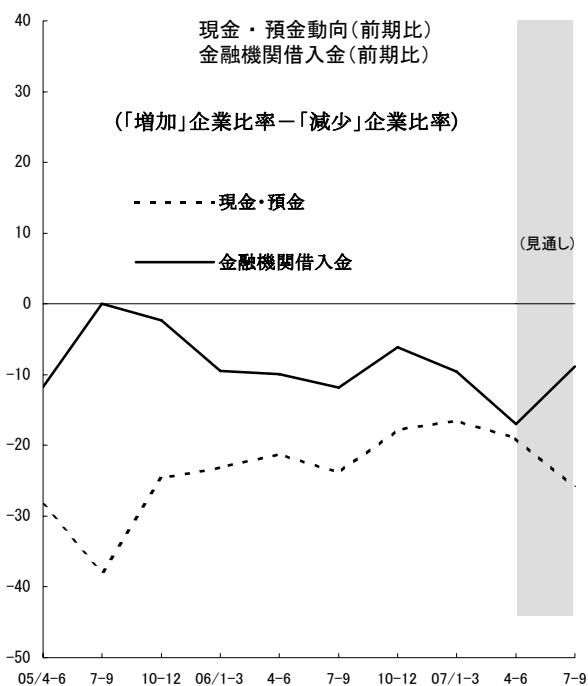
**[7～9月期の見通し]** 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が16.6%、「減少する」が25.4%であることから、DIは△8.8（当期△17.0）と上向き予想となっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4～6月 (実績)	1.8	13.1	51.2	27.6	6.3	-19.0
	7～9月 (見通し)	1.4	6.8	57.7	25.0	9.1	-25.9

金融機関借入金(前期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4～6月 (実績)	1.8	14.2	51.0	28.9	4.1	-17.0
	7～9月 (見通し)	2.8	13.8	58.0	21.7	3.7	-8.8



#### (4) 販売代金回収期間

**[4～6月期の実績]** 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が2.8%（前期3.7%）、「長くなった」が10.0%（同13.3%）であることから、DIは△7.2（同△9.6）となった。また、87.2%（同83.0%）の企業は「変わらない」としている。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が1.4%、「長くなる」が9.2%であることから、DIは△7.8（当期△7.2）となる。また、89.4%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

**[4～6月期の実績]** 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が0.9%（前期2.8%）、「短くなった」が4.5%（同4.1%）であることから、DIは△3.6（同△1.3）となった。また、94.6%（同93.1%）の企業は「変わらない」としている。

**[7～9月期の見通し]** 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が1.8%、「短くなる」が4.1%であることから、DIは△2.3（当期△3.6）となる。また、94.1%の企業は「変わらない」とみている。

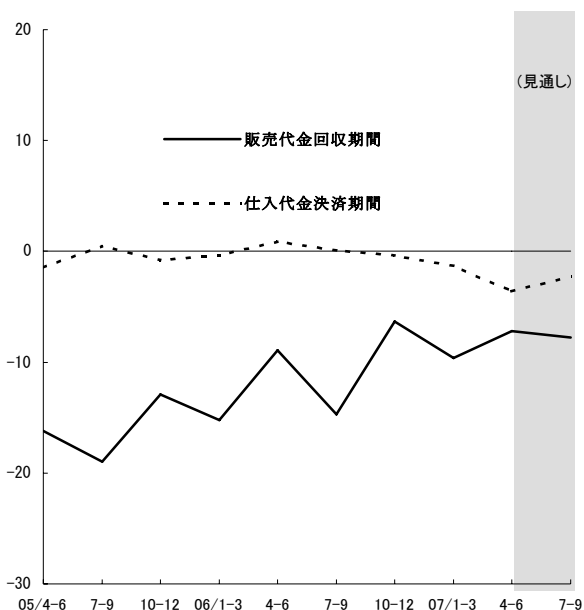
販売代金回収期間(前期比)

		（％）					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4～6月 （実績）	0.5	2.3	87.2	9.5	0.5	-7.2
	7～9月 （見通し）	0.9	0.5	89.4	7.8	1.4	-7.8

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4～6月 （実績）	0.0	0.9	94.6	3.6	0.9	-3.6
	7～9月 （見通し）	0.0	1.8	94.1	3.2	0.9	-2.3

販売代金回収期間動向(前期比)  
（「短くなった」企業比率－「長くなった」企業比率）  
仕入代金決済期間動向(前期比)  
（「長くなった」企業比率－「短くなった」企業比率）





## 5. 経営上の問題点について

～ 製造業では「原材料・仕入価格高」が同率でトップ ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、**全業種**では「売上・受注不振」28.6%（前期28.8%）、「過当競争」15.8%（同17.7%）、「収益不振」14.6%（同13.1%）、「原材料・仕入価格高」13.3%（同9.6%）「販売価格安」11.1%（同12.1%）、の順となり、上位の項目に大きな変化はなかった。

業種別に上位3項目をみると、**製造業**では①「受注不振」25.0%（前期23.9%）と「原材料・仕入価格高」25.0%（同19.7%）が同率でトップとなり、③「販売価格安」が10.5%。**建設業**では①「受注不振」31.9%（同34.7%）、②「過当競争」24.2%（同17.8%）、③「収益不振」18.7%（同14.9%）。**卸・小売業**では①「売上不振」30.6%（同29.2%）、②「収益不振」18.3%（同14.6%）、③「過当競争」17.2%（同21.6%）となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、次いで「過当競争」「収益不振」「販売価格安」が上位を占めているが、製造業では「原材料・仕入価格高」が同率でトップとなり、比率が高くなっていることが目を引く。

